研究会 記録　1959・11・10(火) 1:30 ～
於 人文分館

重層社会の考え方に関する谷の質問に対する今西の答

Tan　工業をやる連中や農業をやるものが分かれてくるのが重層か。有閑層を考えるのか。

Ima　支配・被支配の関係を考える。異民族がでてきて支配した場合を考えたらはっきりする。many layer を考えてもよいし sublayer を認めてもよいが model は異民族が支配し原住民が支配される関係である。これに対してひとつの社会で sublayer の中からそのちがいをはっきりさせてきて two layer になるという case もありうるわけだがこれはいまのところ model としてははっきりしない。

Tan　資本家がでてきて労働者を傭って、国家の権威は別にあるという形はどうなるのか。

Ima　社会には縦割りも横割りもあってそれぞれ政治経済的につながっているから現代国家は非常に複雑である。複雑なものと考えた方がよい。マルクスの考え方はシンプルすぎる。

Tan　ではこの前、単層を考えたのは何故か。

Ima　余り複雑になれば一緒に考えて了った方がつかみ易いという見方をした。

Iiz　縦割りと横割りとをはっきりしてほしい。

Ima　工業でいえば Home industry みたいなものだったら農業や小売と同列だが大会社や銀行などがでてくると縦割りの中に sublayer がいくつもできてくる。昔のように支配階級と被支配階級とに簡単に分けられない。階級というものだけでは切れないような複雑なものになっている。最初にでてくる重層異質というものよりはまたもっと進んだものとして考えねばならん。

Iiz　ひとつの企業が成長していったら他の企業とは無縁に重層的になるととられる恐れはないか。

Ima　今は組合活動などで階級をつくるという方向もある，昔のように与えられたものとして階級があるのでなくて，意識的に作っているという見方もできるということだ。

Uey　封建社会末期では身分のほかに商人などが大きくなってきて実際的な力というものと formal な力が入り組んでややこしくなっている。

Ima　slave ではそれが問題だ。一番簡単な slave は本人だけがそうで子供はちがうという場合，これは明らかに労働力の不足を補うのだ。case by case で考えんならん。

Tan　植物とか動物の場合は layer はいくつあるのか。

Ima　熱帯降雨林などなら一番 layer は多いし，ひとつの layer に sub も考えられるが植物と人間とは同様には考えにくい。人間はひとつの種で血が互いに通うものだ。
植物の種はわかれたらわかれてっきりだが人間はわかれてもひっつく可能性がある。これは人間社会だけ。

川喜田案に対する今西の意見

Ima　ひとつひとつの個人 individual は個体維持に結びつく面と種族維持に結びつく面とある。個体維持は個人充足，一方は奉仕 個人充足はいままでの idea でいえば competition に結びつき，一方はクロポトキン以来の mutual aid の idea にあたる。ここで1頁の4のところに献身への drive は個人にとって外からのものでなく本来的なものとみるとあるが此の点には賛成。個体に附与された attributes としてみるのは賛成。ところが問題はこれがすぐに聖俗に結びつくかということ，これが強引でないか。

state と cherch とは二元的なものとアンタも認めている。これが俗と聖とになっているわけ。しかし state，cherch となればもう両方とも organization であって，個人に対しての働きかけからいえば両方とも強制を用い得る立場にある individual は外にして互いに争うということも充分あり得る。してみると聖というものと cherch と結びつける限りはそれでいいかもしれないが個人とはいっぺんきらんならん。ここでいうのはどこまでも個人であとでは social なことだ。state が成りたつ必然性を考えると個人充足をさせ mutual aid もみたさせる為に小は tribal なものから大は state までが成り立っている。だからこの案だけでは individual な level から social な level へのつなぎがはっきりしない。そこをはっきりする手があって欲しい。
こういう social evolution をいままでは外形的にしかとらえてこなかった，しかしこの evolution を導いた drive というものをその動きをどこかで匂わしてほしいし，第II部を切ってあるからこの前からいっている。フレーザーとの結びつきの点でもある。それがなにかを考えてみると個体の場合でも bodily な欲望充足 sex などもひとつは non bodily なものとある。これをすぐに先の social な段階へもっていって bodily が俗で nonbodily が聖やとくっつけヨンネン。僕は両方とも聖なるもんや と思うけど ずきに わけてくっつけたがる。
しからば nonbodily とはナニモンか。bodily なものはもともと perpetution ということがある。欲望といってもよいがこれが無限には perpetuate しない，ムゲに充たす訳にもいかん。これが死の自覚，これが他界というものを考えて perpetuate したいということになる。ここで始めて宗教の origin に個というものが結びついてくる。その意味において bodily と nonbodily とはわけることのできないひとつのものである。同じひとつの欲望が現われを違えている。場合によっては他界に perpetuate せんがために今の欲望を抑えるということがあってもよいが同じものだ。これが cherch になるとこれがまた聖と俗をわけはじめる。だから一応聖と俗の吟味をした上でこの案を編成して欲しい。

Kaw　2枚目のCというところに今西さんのとパラレルかどうかはしらんがそういうことを書いておいた。Holyの堕落ということで個人充足と奉仕とかが分解的になってしまってindividualityが完結性を失う時にはHolyは堕落する，わけたらいかんと思う。今西サンのいわれたbodilyなもののperpetuationを含めて，未分化なものが根元的だと考えている

Uey　今西サンのいう死の自覚というのはどういう状況ででてくるのか。

Ima　結局大脳皮質の発達ヤロ。

Uey　自分の親とかとひっついてアイデンティフィケイションをやってないとわからんのかもしれないな。高等動物では死を悲しみますか。

Ima　高等動物になるとサルでも，他のものはかまわんけれど子供は救うという行動をとる。これは種族維持ですが，ところがオトナがやられても助けにいかん，親の死を悲しむということはない。

Uey　ウバステムチューのは割とナチュラルなんやナ。(笑)　すると死の自覚はかなり高等なんやナ。

Ima　それがどうしても宗教の成立にむすびついて，動物に宗教がないというのとウラハラの現象である。だから宗教のあるなしは動物と人間を切る有力なメルクマールである。

Uey　死体を葬るという習慣があるということは大きいことやナ。死体を葬るのはいつからの慣習。

Ima　やはり死後の世界を認めてからだ。

Iwa　反対に生の自覚ともいえるだろう。

Ima　生に対するより深い自覚があるわけ。

Iwa　その生の自覚は個人の生の自覚ということになるのか。集団の中の一員としての生の自覚だろうか。

Ima　いま話している限りでは僕は個人維持の方だ。

Iwa　例えばオーストラリヤの未開なところでは集団のトーテムがあり集団の生命の故郷ともとえる土地に投影されたトーテムの場所がある。そこで先祖が生れかわってくるというような輪廻的な考え方がある。集団のメンバーはマナマジックで他へ生れかわっているかもしれん，だから集団として考えているか個の死を考えているかはあきらかではない点があるだろう。

Ima　僕は個人の死の自覚というものは衝動的なもので親の死などをみて，自分も死ナンナラン，そこで欲望の中絶を自覚し悩むという個人的なものでそれがあって社会的なものになっていくと思う。

Iwa　デュルケムをみるとトーテミズムがあってトカゲなんかが集団表象であって集団の生命の永続をシンボライズしているという，するとこれは最初に集団があって，その後に歴史上のある時期に個人の死の自覚がでるとは考えられないか。

Ima　集団があって個人の食欲がおこるということはない。はじめから生物としての個人に，肉体にかかわるものだ，ある程度大脳が発達してからのことである。

（飯島　ゲルカでは ——————— きこえない。）

Ima　大分前の研究会でどんな社会であっても宗教心と世俗心というものは二つながら人間にはあるという假定のもとに出発してはどうかと提案して川喜田の賛成は得たが皆さんの指定は得られなかったが，それはやはりここに結びつく。これは全く基礎的なものである。state cherchもこれにかかわるものだし，更に時世によってどちらかが優勢になるということになる。ところでいまはサイエンスの時代で宗教はいらんということになるとどうなるか

Uey　いまの今西説はbodilyとnon bodilyをわけて考えることから出発した，いま両者の関係をもういちど考えてみると例えばコミュニズムでは科学に立って来世は考えない，しかし，mutual aidは考えている。これはnon bodilyなものである　ただちに個人にかえらないが国家のため，社会のために協力することになる

Ima　戦争になったら靖国神社に祀られるということがあって死んでいかはる，これからでもそういう生き方はあるかもわからん。

Iwa　うまく云えないが假説として宗教心と世俗心とがあるという話を個人と個人を生かしているものがあるというふうに云いかえると対応として個人を生かしているものというのは集団とか環境，場所など対応の捕え方によってかわり得ると思う。

Ima　そうです，それが川喜田のプリントIX環境と体制の論理にあたる，ここが面白い，ここが分類，分布系統論みなに関係している。結局いかに自分のperpetuationだけを考えても集団がかかわってくる。いつか集団のために死なんならんときもある。

Iiz　その話ではシャーマンはどんなdriveとして考えられるか。

Ima　ヨーわからんが占いとかマジナイはperpetuationに結びついている，またシャマンはトーテミズムとも結びつく，テリニッシャンのような面がある。シャーマンはミディアムになっているだけでその背後に他界があって，こっちに現世があるようなものでないか。だからシャーマンのもとになっているものにはいろんなものがあってもいいのでないか。

Kaw　話が戻るが集団か個人かという岩の話だがもともと集団にもあらず，個人にもあらず，始めにdriveありきだ。あとからpolarizationができてきた，それにあわせてfixされるというふうに考えている。結局schemeの発展自身が生産力の発展に関係があると思う。

Uey　そのschemeとは何か。

Kaw　もともと未開人は宗教心とか世俗心とかわけてオラン。それに4チャネルを与えて2つのpoleにわけることによってdriveが出される，効率が増大する，これをschemeといったのだが

併し，これが fix して scheme それ自身が reality であると錯覚するようになると scheme がアシカセになる，このとき drive が ふたたび 根元的なものとして，あらわれるという時がある。

Kaw　種族維持の問題とはなにか，その時 population をどう考えるか と考えてみると 種族維持の問題というのは本当にはないので何時も ふえるか減るか，という問題であろう。人間でも動植物でも同じで，結局空間を充たす という方向へいくのでないか。そうなると種族というものを維持するという defensive なものでなしに，もっと aggressive なものであるという気がする。

Vey　種族維持というのはそんなに一定の個体数を維持するというような厳密な意味があるのか。

Kaw　生活水準を一緒に考える　Total life-volum (Ⅰの1)　このプリントのⅠの1で生活水準と書いているがもっと一般に per unit の life volume を考える，だから具体的には エンゲル系数を考えるか体重をとるか　など問題があるが何れにしても人間の1人と蟻の1匹とは 同じ1でも違うということを表わしたい。

Vey　消費量でとるか 生産量でとるか

Tan　エネルギーの量もある。

Kaw　いづれにせよ maximum を目指すという。

Ima　しかし 世界全体というてしまうといまの分類とは違ってくる。また 人口×水治水準 というとスエーデン と アメリカ とは 計算結果を アメリカの方がふえますナ。

Kaw　それでよい。equivalent ということもあり得る。そこで結局この量が大きくなるほど進化したと考える。つまり文化をいままで質だけで考えてきたと思うが 生産用具の効率化で進化を考えるというのは やや 量的方向を含む。私自身は進化を人間自体の volume で計ろうという。

Ima　蠅がいくら個体数がふえても進化とはいわない。

Kaw　私は life volume で進化を認めたい。そこで江戸時代に階級があったということも この立場から是認する，この段階の存在によって人口が最大になったのだ。

Vey　実証できるか。

Kaw　假説である。この時代はこの体制による人口があり これを維持するような体制であったのが明治になって環境が変化し，体制がかわることになる。そこで更に人口が収容できる方向へ動くとみる。かかる量的見地からだと 道具が進歩せずとも，移住・開拓によって 生産が増し 人口がふえるのも進化とみよう ―― といういい方になる。人間世界の value の世界 sollen の世界もこの drive によって一元的に考え得るのでないか。

Vey　川喜田がいま出した 文化の質的，量的の2面は，エンゲルスの国家の起源では噛み合わせて考えている，生産用具の進歩によって量的に生産があがれば，どこかで質的に epoc をつくる。

Kaw　それは基本的に量的な考え方だ。

Vey　しかし エンゲルス を否定するのか，是認するのか。

Kaw　私は 結局 final product としての人間自身の増加に重点を置く。フルシチョフ とアイゼンハワーの間にでも生活水準で競争しようといっているが人口の観点が抜けていると思う。

Ima　人口だけからは進化は論じられない。レミングは何年めか毎に モノスゴク population がふえ，また減る，こんなのは 進化と退化を 繰り返えしていることになる。進化というものは urtype があって，これが deferentiate し specialije したものほど進化していると 設価値的に考える。人間社会でも はじめは simple で だんだん instrument の進歩により分業や，階層がでてくる。だから進化と考える。従って川喜田のいう production の高い社会というものは結果として，この考え方に含まれているのである。

Kaw　それはわかる，しかし その complexity というものも その効率を高めるための 道具としてしか認めない。いたずらに エラボレイトすること自身を 進化とは思わない。また体制の進化ということ自身に尺度を おかず，あくまでも final product に尺度を おきたい。

Ima　もひとつ，人間社会の evolution には中世的な中だるみもあるかもしれないが速度のかなり速いもので optimum のバランス がつかみにくいこと，更にまた異説もあるが over adaptation の現象も考えておくことが必要だ。

Kaw　そういうことはあると思う。いろいろ問題はあるがⅢまでは background であって，一応ごまかしのようだが先へいきます。

（注意：以下の記録は 川喜田案のプリントを参照しつつごらん下さい。）

（Ⅱの説明で）

Ima　個と社会というのは 昔からの社会学の問題でよくわかるがそこへ生殖がなぜ入るのか。おもろいナ。

Kaw　（Ⅳにおいて）culture が super organic であるとする考え方には私は反対である。私は culture はあくまで apparatus とみなすのである Ⅳにおいて，1・2 にわけることがそもそも人為的である。だから「的」とかいておいた。

Ima　（Ⅴにおいて）分業を強制の論理に入れてハル が 発生的には 慣習の論理である。始めは aggrigation からでたと見た方が 系統を考えるときには 良いと思う。

Kaw　諒解。

Ima　個人主義のところで個人と世界ということを 云わはるが，これが tribal な段階なら世界といえども非常に狭いわけですナ。つまり血縁・地縁にとざされた世界である。このような世界におけ

る個人主義とはどういうものか。

Kaw　これはそっちがドミナントな時期であって個人主義はそれに屈伏しているというか，それに dependent であるとみる。

Ima　このとき川喜田のいっている個人主義はもう個人の body を離れてルンですナ。

Kaw　そう。もっとソフィスティケイトしたものだ

Ima　だからもう少し，なまのままの個人が将来個人主義になるようなものを荷ないつつそういう原始社会に住んでるワケヤ。そこのところをもうすこしはっきりしてほしい。結局，君の云わんとしている個人主義は社会発展のどの段階から ideolo 化しているのかということだ

Uey　このまえは資本主義の段階だということでしたね。

Kaw　あれはその時のホンの一例にすぎない。要するに I・II・III の3本足を考えているのである。その足がどれも必要である時期により強調されることはあるが，必要でしかもこの3本はそれぞれかなり独立して互に協調しまた斗争し得るものであるところが問題だ。

例．ローカリズム　対　中央集权，　民族主義　対　教会
自由主義　対　民族主義的保護経済
部族制　対　都市的商業主義
} もっとこまかいところでもなどもあるだろう。

Ima　もう少し狭義の所謂個人主義とそのように応用して使う個人主義という言葉とをもう少しはっきりと使いわけてくれンと，何でもかんでも個人主義と云って了ったらややこしくなる。

Kaw　更に重層同質というものを clan などに基礎をおいた部族制というように考える，これに対して単層異質を考えれば初期のある時期に，この2つがあり重層同質には指揮従属という原理が働き単層異質の方には分業の原理が卓越して，この両者が anfheben されたのが重層異質で，ここに国家がでている。それは部族の territorry のつぎめのようなところにマーケットタウンがでてくる。だから経済的スフェヤ ＝ clan の領域とは必ずしもなっていないのであろう。ハンザ都市や堺が封建勢力と争って負けるというにも同じことだと思う。

Uey　どういうふうに負けるのか。

Kaw　堺など分業のプリンシプルでやっているのに封建諸侯の方はシキジューゾクのプリンシプルでやっている。ある時に激突して負けヨル。

Ume　封建諸侯がでてくるということと，堺ができてくるというのには同じような理由が働いているように思う，だから堺が出来てくるというのは分業制ということとは違うのでないか。ハンザ同盟も堺も封建に負けて一称化されるという経過は同じだ。しかし，分業とは違うものがある，例えば領国制というものと同じものがあるのでないか。

Kaw　その辺になると具体的にはボクもヨーシラン。

(VI について)　始めに個人の論理が優越している例として a. シャーマニズム をあげておいたが これは二枚メ IX の a. 原始個人主義と異常人への関心として働く。これはまた Holy に関して VII, b, (1) のようなあらわれをとる　スターリン は俗っぽいので格下げしてマルクスを認める。

Ima　ちょっと勝手過ぎヒンか。

Uey　個人 論理と納得の論理との関係がわからん。果してシャーマニズムは納得の論理であるか。マルクス自身の論理は非常にデダクティブである。コミュニズムによってつくられる社会の中での論理は強制の論理か，納得の論理か。

Kaw　それはあとでやります。

Tan　先へゆくまえに確めておきたい。V の共同の論理はこまかくわけて6つの足になる。6から3つとる組合せができるが これは系統を考える梅棹の方とつながるものとして考えているのか。

Kaw　むづかしいがその予定をしている

Uey　単なる数学的な組合わせよりは少い筈である。

Kaw　シャーマンは個人としてそういうものの出現を望んでもいるというふうに考える，また個人の論理は教会によっても現われる。個人の論理が優越した組織は組織なりに evolution が考えられるのではないか。ここに今西さんの話にあったように組織ができてしまうと，統制の論理が優越してくるということにもなる。このようにひっくりかえれば俗化したことになる。

Ima　そこで俗と聖をそんなとこでわけたら工合が悪い　といったのだ。

Ume　聖というたてまえの制度上の聖と俗权とを個人の bodily と nonbodily とはわけてくれんと困る

Kaw　そこで所謂 dualizm に聖が俗化するのを防ぐために聖は聖，俗は俗でわける，そういう考え方があるのでないか，あとの文はコミュニズムか，山岸かはわからんが依然として要求が流れていると思う。(次に血縁論理優越についての説明)　Caste の面白い点は地縁がおちたみたいな点にある。

(VII について) 特に奉仕の drive とあるところは，特に個人超越的 drive を強調したものと訂正。

Ima　ここでも先の私の論をいうならば，Holy とは個人の論理が優越したものというのなら，俗とは個人の論理が優越したものということで同じことになる

Kaw　わかりました，たしかにここではまだ問題が残っています，ここでの話はたとえばルネッサンスにおける所謂俗なるものは中世的な俗化した聖に対してでてきたもので私の云い方ではこれが個人の論理のでてきたところで，Holy であるということになります。個人の論理がもいちど Holy へ戻してくる，ダンテとベアトリチェのように。

Ume　僕は Holy というものは斯う思う，自己保存とか自己充足の目的のない奉仕，生物学的に云えば。

Ima　僕の今日の説明では自分の perpetuation をのぞむところから死の自覚があってそこから non-bodily なものにむかうという，だから2つは同じところからきているというのである。

Vey　納得の論理とHolyとの関係がよくわからん，Holyを始めて問題にしたとき宗教がでてきた，非合理なるが故に我信ず，という云い方がある．だからこれと納得の論理とは結びつかないのでないか。

Ima　納得の論理は必ずしも合理性を必要としない。

Vey　しかし そうなら 納得の論理というのがわからん。

Ume　論理と ここで云っているのは広く使っている，論理によらない納得はいくらもある。

Ima　川喜田の云う強制の論理さえ個人の納得の上にたっていることは非常に多い。

Kaw　多いのだけれども一応分けた上で両者の噛み合いを考えてみた。

Vey　だから なおのこと 納得の論理ということを はっきり規定してほしい。あとのところで納得の論理が私利追求などにもでてくるのだから ややっこしい。

Ume　納得の論理は人間同志の交渉の仕方 或いは交渉の結果のまとまり方のひとつだろう。

Kaw　お互いにもうけようじゃあないか というイニシャチーブからでるものだ，

Vey　契約もここからでるのか。

Ume　納得という云い方をやめて，別の言葉にならんか。

Ima　社会の発展において，血縁・地縁の論理から重層になり，強制の論理になり，資本主義社会になって納得の論理になる，というのならよくわかり 発展段階的になる。

Kaw　ソナイ 簡単に見ると，ダイナミックス でなくなる。上山サンの疑問に対しては VII. a に書いてある。個人超越的な drive からでるものを云っている。宗教にも科学にも向う drive

Vey　それをどうして Holy といわねばならぬか。科学は常にHolyとケンカしてきた，個というものを非常に強調するということならわかるがそれを何故 Holy というのか。

Kaw　Holy ということばに必ずしもこだわらないが，何か今迄とりあげられなかった面をこんな言葉であらわしておきたいのである。

Tan　体制をつきやぶるような drive もあるがもっと小さいグループの中で drive を解消しようとする Holy はあり得るだろう。

Kaw　ある。だから Holy を特に個人超越的 drive といっておいた。

VII－b の Holy の対象は いわば drive の焦点 といってもいい。日本の天皇が萬世一系ということをうたうなら(2)になる，法王は(1)である。両者の性格は違う。(1)(2)(3)へ向って IV に述べたようにこの本来的なものは現われないわけにはいかない と考える。

Ima　先に谷が指摘したように Holy というものが既成体制を突き破るようなものなら，ここであげられた対象はみな，もう出来上ったもので これにむかうというなら すでに Holy は ホトビているとみるべきでないか。

Kaw　これは パイオニヤのものでなしに易行道である．これは follower のものである。follower の drive がこれではやく悟りをひらける。

Vey　しかし，これらの対象には すでに納得と強制とが同時にいつもあるのでないか。

Kaw　これらの対象を formative に見るのでなくて，フロレッセンス でみようとしている

Ima　しかし 川喜田の説の二元論で両者が強調したり対立し得るというように考えた方がよいのでないか。

Ume　個人主義の内容に個人の私利追求と奉仕をあげて，奉仕と Holy を結びつけるから工合が悪いので，これをはずしてもらいたい。

Kaw　そこで C にあるように 本家と分家が入れかわったみたいになってはイカン。個人超越的というのは個人外的なものではなしに，あくまでも個人をとおしてでてくるものだ。個人における drive の統一性がなくなって，利己主義か奉仕か というように解体する，それが Holy の堕落である。

Iwa　Holy というものは，商業や active な secular な活動と結びつかなくても成り立つのではないか。キリストは経済活動していない。だからHolyの堕落でなしに Holy をかついでいる人間の堕落というのが間に入らんとネ (笑)

Kaw　クラックホーン が何故キリストがでてきたかについて，やはり当時の人民の堕落を考えナンだら何故あんなエキストリームがでたかを理解できん といっているから，そういうこともあろう。

Ima　君の Holy は大分ややっこしいですワー (笑) 手ごころがむづかしい。(笑)

(VIII) こら ちょっとでケマヘン。せっかく長いこと こしらえたけど。

Kaw　実際はなかなかむづかしいと思うが ability を生かす重点によって社会の性格が見られると思う。

(IX) 環境と体制の論理とありますが むしろ環境と共同の論理として下さい。

Ima　ここは一番おもしろい，云々の plan と結びつく。国家編成論とも，オ一・オ二 地域理論とも結びつく。

Kaw　IX の b，(1)(2) について 特に(1)の場合に改めて個人の initiative が問題になる，こうした changing environment の未完成な力が反って モダンな体制をつくりあげるのにかえって有利なのであろうと考える。古いと新しいとの違いにこだわらず一貫して眺めることが必要だ。(3) では個人の自覚がかえって対自然に対する自覚を深める。(5)・(6) で最も強力なのは征服王朝のときだが extention はいろいろある。face to face の関係。

Ima　さっき原始個人の論理と近代個人の論理とが一貫したものであるといったが エスキモーは face to face の生活である。しかし extention はきかんだろう。

Kaw　しかし エスキモーは まだ血縁や地縁の論理の方が強いのだと考える。 しかし なおそこにある個人の論理は モダナイズ の可能性を もつものだと考える 色あげ いかん による。

Ima　同じように農村社会でもそうだといえるか。

Kaw　それはいえる。封建では face to face で個体識別によっている。

Uey　しかし 奴隷制度でも実は個体識別の上に立っている。 人頭税だから。

Kaw　イヤ、 僕のは人間を全人格的なものとしてみるということで あって これが徹底した封建の中にも温存されていて 近代化のときに芽をふくというのである。

Uey　さきの人権であるが これは権利思想の問題で 東洋ではあまり権利の思想はなかったように思う。

Kaw　どの人間も同じ人間だという感覚を指す。

Uey　すると権利思想である必要はないのですね。

Kaw　人権というのは誤った表現であったかもしれん。

Ima　川喜田の個人の論理がどこにも embryo としてあったかもしれんが、 そして近代でそれが育ったとしても これを そのまま 原始時代の方までのびてると思っていくのは 余り賛成デケン。 また吾々の今の社会は みな農耕社会からでてきたのに、 川喜田説なら チベット辺りが一番進んだ社会や ということに成りかねん。（笑）

Kaw　イヤ, 西洋は農牧的で牧があったからと考える。 日本ではよくわからんが 山岳性を考えてみたい。

Ume　川喜田説は遺伝学説みたいで、 もとはみなあって どう表現されるか というような非歴史的な説のようだ。

Kaw　必ずしもそうでない。 萌芽状態である不足があって いままである。 これに対する stress のかけかた であって、 そこに歴史のダイナミズム があると考える。

（12 統制の論理が第二地域, 慣習の論理が第一地域 プリント訂正）
12が何故こうなったか という点で チョーセン と オーセンの少い地域で慣習の logic が温存されると考える。 第二 では大陸の真中で常に荒される, ウイット フォーゲルの大灌漑, 異民族を含まねばならんという点を考える。 人為的幾何学的方向の発達

Kaw　旧大陸の乾燥地帯を南北に分割する必要を感じる, 暑い, 涼しい乾燥地帯。 違いは涼しい方は宗教的に シャーマニスティック である。ラマ教はそれの extention という匂いがする。もうひとつは信仰について コンベンショナル で抱擁力がある, ところが暑い方は回教圏でドクトリンに帰依して ヒステリック である。 暑い方は オアシスで水をひけば豊産であるが 水がなければ 徹底的に不毛で 一歩外には ベドウィン がいるや とか何とか云う。生活様式の バラエティー が確然と割れてくる。 そして オアシス そのものは 生産が高いから余剰ができて 牧民対 オアシス農民 という関係のほかに商業専門のグループができたりして ethnic segment がパチッと割られた上で habitation をやっている。 そして これが縦の関係となると caste 社会になると感ぜられる。
涼しい乾燥地帯 例えば チベット だったら どの家族も農民でありかつ 牧民である。未分化的傾向がある。 宗教でも カトリック の坊主を入れて平然としている, これでなければ という エゲツなさがない。 そのバウンダリイ は温量指数 85°線を考えている。

Ume　僕もその問題は既に扱った。 大体川喜田説に同じ。 シャーマニズム 地帯と回教地帯にわけるのも同じ。 しかし 85°線と違って 冬雨型と夏雨型の違いやとする, これで ステップ型とオアシス型に分かれる。 ステップ卓越型 が君のいう シャーマニズム型, オアシス卓越型が回教圏, そして全く君の いうように seggregation と cohabitation である。 ステップでは regional に seggregation がおこる。

Ima　それは しかし, 冬雨・夏雨と いわずに ステップ と オアシス という方がはるかに vegetation に合っている

Ume　吉良のデータ から プロット すると両者は かなり よく 一致する。 ただ中間のところで雨の降り方の決まらん ところが少しある

Ima　パキスタン 辺りまで含めて 考えると冬雨型と違っても オアシス農耕型は ひろがっている わけで, むしろ vegetational に割る方が なお ecologic だと思う。 パミール を越える時に ステップ から オアシス に かわる訳や。 カラコルム でも冬雨地帯 ではない, 夏雨がさえぎられて入れん というだけで オアシス型になっている。

Ume　山の中はどうです, 冬雨と違うのですか,

Ima　違うね,

Ume　何型?

Ima　つまり気候配置から云ったらモンスーン やけど, 山にさえぎられて, 乾燥しとるんや。 何時雨が降るチューことのないとこで, 現実は氷河の水をひいとる。

Kaw　現実には, 雨に ふたつ ピークのある所がたくさんある。

Ume　もうひとつ, いまの暑いところは大灌漑という云い方もすると黄河流域が入らんようになるが。

Kaw　85° とったら暑い方に入る。 だから Aのほかにもひとつ A' をわけんならんかも わからん。

Uey　ウィットフォーゲルも あれは広域クヮンガイの density の比較的低いところだと書いている。 やっぱり メソポタミヤ などをあげている。

Ima　シナでも黄河の サンセイ 辺りは 夏雨地帯やけれども雨は少い, だから もともとは オアシス農的に発達してきたと考える。

Ume　オアシス型ということは基本的には開拓がやさしく, 水の補給が持続的にできる, コントロールが

しやすいということだ。だから黄河の下流に出てくるのはもっと進んでからである。コントロールでは治水の方がむづかしいのである。

Kaw　シナの問題では斯う考えたい。まづ慣習の論理が続いたのだがそれだけではやっていけないという大地帯の統治に際して統制の*logic*が慣習の*logic*の上に乗っかった継ぎ木式になった。

Ume　しかし、シナであきらかた征服王朝といえるのは元と清だけでしよう。

Kaw　マー　そうだけれど。

Ume　インドでもカブ=王朝が出てきた、ロシヤでも征服王朝が出てきた、そういうことと違うのか。イスラム世界でもトルコ王朝ができる。だから今云った征服王朝のでることをシナの特徴とみることには反対である。才二地域の大帝国の特徴だ。

Ima　重層というものが一番最初になったとき これはデスカバリーだ、しかし一度このモデルができたらあとはイミティションで同じ民族の間でもできるわけですわ。だから重層はいつでも征服と考えることはできない。それは*origin*を云っているのだ。

Kaw　しかし、元・清にはさまれた明などは常に統制の*logic*の欠乏に悩んだ印象を受ける。内藤湖南はシナは一方では天子をアタマとした統制の方へどこまでも進んでいきながら、一方ではますます民衆的になったというように考えた。

Ume　インドに於ける、ムガール王朝は征服王朝でしよう？　それからあと大変弱体化して君の云った明になる傾向がある。征服王朝はすぐグニャグニャになって了う傾向がある。ロシアのキプチャク汗国やイル汗国なんかちゃんとしたもんやがしかし間もなく弱る。

Kaw　その辺が大事な問題で小地域の*integrality*から大地域の*integrality*へと発展するときに、慣習の*logic*でいこうとすると成熟を要するというか、時間がかかる。そこでパッとやるのが統制の*logic*を借りている。ゲルマンでいえば彼等自身は慣習の*logic*をもっていながら、シバシバローマの論理を借用した。こうして才一地域では接木が成功した。

Ume　しかしそれでも大ヨーロッパ帝国はできない。

Kaw　いま慣習の*logic*でモタモタしとる最中というわけや。だからナショナリズムでも慣習の論理的ナショナリズムと統制の論理的ナショナリズムとをわけて考える方がよいと思う。

Ima　大体異民族が居ヨッタら統制を強化する外に手がない。

Ume　同時に異民族が前に居ったら統制を強化せんならん。此の事情が非常に大きいと思う。才二地域が統制になるのは異民族が居るということだ。

Kaw　「インドで考えたこと」の中でタレケントあたりの話で歴史というものを民族興亡史として見る見方があることに始めて気がついたというその感覚だ。それが吾々にとって驚きであるという問題。
次へいって、15の図で統制をA、慣習をB、個人をC、として下さい。これで16のa,b,c,を考える。

Ima　しかしこの図を見ても川喜田がいままで強調していた個人の論理は実際はエライ影が薄いでないか。

Kaw　イヤ。たとえば16aではヨーロッパ封建制というものを考えている。ここで*face to face*の個人の論理が温存されて、それが現代に現われてくるというように考える。

Ima　すると現在は個人が三重丸か。

Kaw　個人が三重丸くらいで慣習が三重丸くらいで、現在は17に書いたような問題が起こってきている。(AとBの害悪)

Ume　僕の考えをこの図式にあてはめると、個人三重丸型は非地域的にでてくる、才一地域、才二地域でなしに。現代における、超国家的商業民族 華僑・インド商人・ギリシャユダヤ商人などこれが三重丸だ、そして君の云いかたからすれば*Holy*で一種の世界主義思想をもっているといえる。地域的にいえばこういう民族は才一地域には入れない。そういう個人中心的なのは非封建的地域にしか入れない。

Ima　そういう華僑・インド・ギリシャなどが、既に地盤を築いているところへイギリスなどが侵入して一時抑えた。彼等は小売商やらせエへんし、こんど後退したら華僑らがねばり抜く、ということになるのやろか。

Ume　ならないと思う。何故ならそれは遂に個人における商業主義を越えない、それを越えるには*industrialization*を起こさないかん。そのためには商業民族だけではだめで、統治と結びつかんならん。そうなると才一地域しかでけん。

Ima　しかしイギリスがあれだけ植民地経営をやっといたんやから、あとはどうなるかという問題だ。

Ume　基本的にはそう現在と変ることはないやろ。インドや華僑がいくらがんばっても海運業はやれても造船業はできない。イギリスや日本はそんなとこへワーと入っていったんや。

Ima　いまは手をひいた。

Ume　それは植民地でなくなったというだけだ。東南アジア一帯が工業化するなんかは考えられない。

Uey　華僑は中共との結びつきは大きいだろう。だからいま、*industrialize*しつつある中共と結びついたらどうなるか。

Ume　同じようにインドも工業化しつつある、だから程度の問題もあるがそれに国内消費のこともある、現に東南アジアへの布の輸出など止ってしまった。

Ima　いままで個人の論理について、色々いわれてきたが個人の論理をだけ切りはなして論じて果してどれだけ効果があるか、疑問だと思う。個人は種族とか国家とかを離れては何もやれん時代と違うのか。

Ume　やれんと思う。だから或意味ではむしろ個人性を失うという方向ではないか。

Ima·Ume　個人の論理は大きくなれへんのや。華僑は遂に全中国の一員としてしか行動できなくなるというふうなことだ。

もういちど *spacial* というか, *regional* というか個人を失う方にいっている。

Kaw　だけどそれと同時に *regional* という体制を脱皮できない点をついていくのが個人の論理だ。だから個人の論理が発達しなければ *regionalism* も強力にはなりません。

Ima　ソヤケド, その *regionalism* さえもが, それ自身だけでは成りたたん世の中ゃ。聖なるものは亡びる定めやネン（笑）

Tan　さきほどの Ume の意味は *industry* が土着化するために権力が必要だということか。

Ume　そうです。そして シンガポールの華僑みたいにほんとの自由な奴は(権力があると) でてきゃへん。

Ima　それは アフリカでギリシャ人に会うたら, 国家ちゅうもんはあらへんのやし うらやましい みたいなもんや。そやから, 世界が一つになるまで生きのびよったらいいのや。

Tan　しかし いままでなら そういう商業民族も, 都合で移動できただろうが今では各地に民族中心のまとまりができてきて, 行く場所がないことになって, 生きのびられないという事情になっていないか。

Kaw　僕は *industrialization* が必ずしも *regional* でないと, 伸びられんとは思わない。英国なぞは後進国に大きい影響を与えている。

Ima　しかし 後進国などは日本や英国などから *plant* 輸出などせんならん, 何もかも自分でやってしまうわけにはいかん。

Ume　資源・労仂力・設備を考えたら *non regional* なものではやりにくいだろう。

Kaw　しかし 19世紀後半はそれでドンドン発展した。

Ume　それは *regional* であってしかも世界性があったからだ。

Tan　商業とは違う。

Ume　商業は立地がない, 工業には立地がある, そこが違う。

Ima　イギリスも商業は植民地でやっているが工業は自国でやっている。
16・17 あたりは, ここから ボツボツ 将来を見通さなきゃ いかんという問題が出てる, 系統論にも関係のある大事なとこやと思う。

Uey　（15についての質問） 労仂組合の形態において, 日本では組合が産業別に並んで極端にいうと, 企業別に並んでいて, 新しい技術を持ってきた奴を横から入れてもダメ。勤続年数でいく。一方同一労仂, 同一賃金というのが今の原則である。それができない, だから組合も同一労仂をしている者を連らねた組合にならずに, 企業単位になっている。大学までそうで横の交換ができない。一種の地域的なものだ。このことは川喜田説ではどうなるか, 何からくるか。

Kaw　日本の地縁論理が新しいものにまで強力である。北海道では オ宮サン主義ではなかろう, ずっと, 統制主義的だろうと思う。

Tom　そうですナ——

Uey　しかし この問題は労仂問題の ガンといわれている。

Ume　ガン です, しかし知りたいのは こんなやり方の分布です。年功給は日本だけか。

Uey　わからん。ただ反対は アメリカだ。

Iiz　戦前はどうだったか。

Ume　年功給が非常に システマタイズされるのは やはり戦後でないか。

Uey　戦前は割に自由だったかもしらんが基本的には やはりあった。国鉄一家なぞはその例だろう。中途から新しい技術者が入ってきても まわりから干されるらしい。

Iiz　インドでは カジヤならその給料, 昇給しない。日本では若い小学校の先生より, 古い小使いさんの方が給料が上だといっても わからん。インドは *social mobility* がないから成立しているともいえる。

Ume　日本でも初期の段階では そやったと思う。女工なんか何年も居ったら給料が上るなんてことは資本主義の初期の段階では やはりないのだと思う。社会が秩序化され組織化されると共に次第にそうなったのでないか。例えば古くは武士 チューモン は年功給ではないだろう。その家に永く仕えた からという理由で加増されるということはない。だからいま年功給になっているのには理由がある筈だ。やはり近代社会の *integration* が大変進んだ型に違いない。

Uey　年功給は ヨーロッパ諸国と大変違うということで やかましく云われてきている。

Tan　事務系からでてきたことではないか。事務系の仕事量は エスティメイト しにくいから熟練と年数とかが結びついたのでないか。

Uey　大事な問題だ。大学でも外国みたいに学者を交換しゃへん。

Ume　日本のシステムは エレベーター システム から エスカレーター システム に転換しつつある とも考えられる。前はもっと直通ルート があった。いまは秩序整然と順番を並んで待たんならん。日本的 *integration* だ。

Uey　アメリカの官僚は上ほど責任があるが日本は上ほどない。軍隊でも アメリカの将校は忙しいらしいが日本は将校が何ひとつでけんでも下士官があれば中隊は動く。軍艦も動く。

Ume　しかし それも考えようで それもひとつのみごとな典型といえないか。

Uey　良い悪いはさておいて, 労仂問題として見て欲しい。日本には労仂運動史の研究は多いのだが, 例えば, 統一スト をやるときすぐ困る。一つ一つの会社で条件が違う。

Ima　一朝一夕では なおらんな。

Uey　なおすことがいいのか どうかもわからん。人類学的にとりあげて欲しい。

Ume　逆にヨーロッパでも もっと *integration* が進んだら年功給になる可能性があると思う。

Uey　そこを理論的にしてほしい。

Ume　やはり, 人口の多さが基本的にあるだろう。職を替えたら, 困ることが一杯でてくるから, 全人

格的に組織に入れられるという組織になってくる。

Tan　能力でかわれるより，humanrelation でかわれる

Ume　humanrelation のもつ意味がものすごく大きい。人間が人間としてカワレている，アメリカでは単能機械としてカワレている。だからそんなんと違ってもっと組織の進んだ段階でないか。アメリカでは離れても職がある。

Uey　日本で首切り反対があるがアメリカにはない。日本ではシクジル事が致命傷になる。

Ume　同じことになるがアメリカには戸籍法がない。日本では戸籍に傷がつくということがある。全生涯的に国家管理をうけてるということになっている。家族の成長に応じて，充分な家族手当があるなら，また問題もないわけだが，全体が貧乏で一人あたりの当りが悪いということもあるだろう。これはやはり人類学的にとりあげる問題か。

Uey　こういうことを労働問題の研究者に質問しても殆んど答がでない。人間のエネルギーがこのシステムで開発されるということもあるだろうが いま技術者は困っている，間違いができないからパテント買いになる，しくじるとアウトになり，しかも外へもいけない。

Ima　原研でもそうだという。

Uey　ところがアメリカでは80%は間違ってもいゝらしい。また技術者の交換ができない一方永く居れば給料があがるから意欲をだしてもしようがない，会社丸がかえだからパテント会社にとられる，アホクサイ。もうひとつアメリカでは新機械をだしたら，この欠点はこういうところだから調べてくれと云えるが日本はアウトになるから意味ない。スカウトもでけ．

Ume　野球の選手ならスカウトすることで優秀なものが出てくる，だから技術とはそんなものということになればよい。事務屋を引き抜いたりしてもショーがないのだから技術は特殊なものだとしてしまえばよい。一律に年功給廃止などはとてもできない。

Tan　スカウトが成立するためには研究所などもたくさん必要だ。

Ima　みんなでそんなことをジクジク ジクジク云うてナイカン。組合が一律に組合運動でやっていくものとは事情がちがう。

Ume　それは特殊問題だ。

Uey　イヤ，それは会社の雇傭システムの問題だ。

Uem　そのシステムの中での特殊問題としてみることが必要だ。

Uey　しかし組合は企業別に雇傭契約するし，その問題はとりだしにくい。また技術屋はそのことには無関心である，企業家は新技術を用うときは新しい会社を別に作って始める，というふうにしているところもあるらしい。

Ume　日本では比較的交流のきく職業は印刷工などがそうだ。流動的なものだ。これは年功給のシステムにならないから日給システムになっている。

Iwa　統制・慣習・個人の3つのプリンシプルが3つ同等に並ぶというのはどの段階であるか，という問題がないか。古い時代には統制の中に慣習と個人が含まれていて，そこにでてくる個人とここにいう個人とは同じ名だが一方にはダッシュがつくということはないか。

Kaw　カモシラン。

Iwa　それならその段階をはっきりして欲しい。

Ume　3極分極の分極化が類型的にはっきりしない，納得の論理が一番よくわからん。

Kaw　純粋なものはないので特に始めは未分化でモヤモヤしてた。

Uey　Holy とは個人の尊厳とでもいうものか，（17の表現の問題）

Kaw　個人の自発性自体をHolyと考えている。しかし先の話のように nonbodily という表現の方がよいと思うがとにかく個人の中を貫いて出てくるもので外から与えられるものではない。

Ume　この前富川と話してHolyは自己放出だということになった

Tom　非自己完結的。

Ume　今西さんの表現での bodily な欲求の充足というようにすぐには合目的的に働かないもの，無目的的な自己放出.

Huz　カラスが光りもんを集めてきて，喜んでいるというにはHolyか。

Ima　ソヤロ。

Ume　今西は動物は bodily といったが生物学的にも nonbodily ということはたどれると思う。

Ima　子供があぶないときは母親が身を挺して，救けにいくというのは非自己完結的である。しかし，それは種族保存の方として考える。自己充足的な立場から切りかえたものが nonbodily である，ガラス玉と違って spirtual warld と結びつく，それが宗教である。
川喜田の考えではHolyは何か社会に貢献する崇高なものという感じがある。

Ume　僕のはもっとしようもない或る意味で非常な俗化の彼方にあるもの，或いは技術が面白くて，使いたくて，しようがない。

Ima　川喜田は技術をホビイとして見る見方もしたが，それなら自己充足の最たるものだとも云えるだろう。

Kaw　しかし，自己充足とだけしてしまうことはない。

Ume　ホビイはやはりHolyにつながる。

Kaw　チベットへ桜草を採しにいくのは単なるホビイでは片づかない，崇高だ。近代的な思考では個人と非個人に分けたがるが，そんなものではわけられないもっと根元的な何かである。

Tan　そういうものが4ｐ－4と結びつくか。mutual aid をいうと互いに perpetuate できるよ

うにやっていくわけだが，しかしこれらは一応契約とか約束事でやっていっている。だから何時崩れるかもわからない。しかし個人は事実他なしにはやっていけない面があるから，社会とはこういうものだ，ということを教え込み覚え込むことになる。しかしそれもまた何時崩れるかわからない，個人はそういう意味で不安定である。これに対してHolyとか4ャー4がどうしてもいる。

Iwa　Holyというのはだから polalization のひとつの方をいわないと，Holyだけということはないのでないか。やはり secular と Holy との分極として見るのでないか。

Ume　そうだと思う。そこで俗のあり方に応じてHolyも違ってくる。4ャー4でいえば4ャー4がもう自己放出をさせなくなってきた。

Uey　昔は信者は来世を考えて自己放出をしてきた いまの自分の利益にはならないのに祈りがそうだ。

Ima　また，nonbodily をいわねばならないが このnon bodily もエクスタシイに結びついているのだ。いまのボンサンがひとりで悟りをひらいて，ニヤニヤしているということはあるかもしらんが，原始時代はそんなことはなかったろう。一緒に踊ったりする宗教儀礼に結びついていた。こういう宗教的エキスタシイというものは近代的にはあんまりいろいろのエエモンがあるので必要とせんようになったのかもしらん。

Ume　それはあると思う，だから俗化のきわみからでてくる。—笑— カミナリ族か，カミカゼ登山などその萠芽でないか。

Tom　アメリカの フランク キャプラ という監督が「楽しき家庭」という映画をつくった，家族がいつでも集って納得の論理で楽しくやっていきよる，オヂイサンだけは何時でも地下室へおりて火薬をつくって，地下室の中で時々パァン パァンとやりよるネン。Holyみたいなもんや。コイツが次の作った映画が「スミス都へ行く」でその次作った映画は財産を分けてどこかへ行ってマイヨル映画ヤケド その分けるときの理屈がちっともはっきりしない。この一連の映画は今の話に合うと思う。

Ume　だから現代でHolyが一番たくさんでるのはアメリカや。同志社大の住谷サンが世界をまわってみて，真のキリスト教の信仰が生きているのはアメリカだといった。エネルギー水準が或る程度たまってくると，放出を求めざるを得なくなるのだと見る。アメリカであるのが真のキリスト教であるという意味ではない。形そのものは別のものになっているのかもしれない。ただ彼等が何かしようとするときにはキリスト教のパタンしかない，だからそれでやる。僕が日本の可能性というのは その点である。日本なら別の行きかたができる。

Ima　しかし，日本でも善男善女みたいなものからは出ンヤロ。

Ume　技術家がホビイにこっとるような，そういうものから出るだろう。

Ima　僕はしかし現代では生き方にいろいろのバラエティができて みなそれぞれにHolyを出しているので，そのひとつとしてキリスト教もあると考える。だからアメリカでの真の信仰も少数の人がしているのでないか。

Ume　だからキリスト教がアメリカで栄えるということではない，キリスト教といえども，アメリカではHolyになり得るということだ。

Ima　トインビーは世界宗教みたいなゴツイものを考えてよるが そんなモンはワシラには信じられんな。しかし nonbodily とボクの云ったものが，ホビイみたいなもんで，完全燃焼しているという見方はボクには非常に淋しいナ（笑）

Ume　川喜田のいったようなものの萠芽的なものとみるだけだ。

Tan　ファッシズムは？

Ume　やはり萠芽だろう。

Uey　川喜田の個の論理は一種の独自の意味を製造することだろう，だからこれが深まっていくと，Holyは新しいものを原動力になるだろう。前の文化を否定するときに強くでるだろう。

Ima　トインビーもそれは with drawal ということで入れてある。

Uej　Holyは情報の中で新しい意味を与えることになるだろう。

Ume　また Holyは余裕がなければでないと思う。生活に追われているときには出ンナロと思う

Uey　人為的に生活的であることをやめさせられる場合がある，モーゼの一隊とか文王とか捕われの身になる場合，そういう時にでる。

Ume　僧院に入って自分から生活的であることをやめたり，或いは生活上の目的充足を遂げた場合にHolyは出る。

Kaw　だからHolyは社会のあらゆる面に少しづつありうる。しかし最も根本は individual にまで還元して，いままでと違った飛躍したものになるという，これや個々よりも自分が中心になって大量にHolyを生産するというのが一番大きいHolyである，これがHolyが組織化を求めるということである。

Uey　だから，Holyには何ほどかの dis communication の面が条件となる，あんまり communicate したらアカン。

Ima　だから カルチュー の中に巻き込まれてそれに対する反応が敏感な現代人みたいなモンじゃネ，Holyへ向うエネルギーをそっちへ使いちらしているのだ。そこで或る社会条件が揃って inner directed の人間の多いときには Holy への放出が盛んなのだと思う。

Ume　それは違う，inner directed の時代が非常に宗教的になるとは僕は思わない。other directed であっても自発的にそうなっている。inner directed や other directed は社会的態度の云葉であって，エネルギー放出の型とは違うと思う。別のカテゴリーだ。極めて自発的な other directed なら自己放出がちゃんとある。

Ima　川喜田にいわしたら，その方がHoly臭さがないのや。

Tan　中世のように社会がバラバラになってきたような時の方が出やすいのでないか、

Iiz　ネールなんかは正にそうだ

Uey　結局條件は何でもよいのですよ。

Kaw　條件といえば僕は前に西田直次郎サンの本を読んだ、足利時代に　文化は心理的に非常にジョーセイした（?）　inner directed　の感じの芸術でシンボリックである。これは僕の感じでは　ツァラトーストラ　これから山へ登るという感じのもの、その極点に達して、こんどはツァラトーストラ　山から下りてくるという火薬の如きエネルギーを身内に感じておりてくる、というこれが桃山屏風にあらわれる、そういう転換期の陰の面と陽の面とがあると思う。

Ima　こんどは陰陽説か（笑）

Ume　inner directed　というのなら、そら戦国は　inner directer　だ。

Kaw　ためたエネルギーを放出するのが戦国である　非常に　Holy　である。

Ima　この議論はしかしまだもっとやらんならん。

Uey　非常にいい問題がひっかかっているから逃がさんようにしよう。

Ima　特に未来を考える時に大事なことだ。

Ume　僕がこの間、話をさせられたときの題は牙と幸福であった。明治はやはり一種の　inner directed　の時代で牙をもっていた。いまや牙という武器をもっていることは何にもプラスにならない。秩序整然と組織化されている牙はかえって周りに警戒をおこさせるだけだ。そこで武装解除がおこる。平和的協調的になる一方、生活水準の向上がおこる。そこで個人の目標が幸福という形で固定される。いまは牙を捨てた猪、つまり豚の時代である。環境は良くなっている、エヤコンディショニングまである。その中で充ちたりた、豚が寝ている、これが現在だ。そこで未来はどうなるか、その先にでてくるのがHolyだ。それ以上生活をよくしよう、よりよき生活を求めるというのではない、エネルギーの放出がそこからでてくるだろう。これが日本なら何もパタニゼイションをおこさずに自由な形ででてくるだろう。キリスト教的チャリティーというものではなしにネ。そういうものに僕は期待するという話をした。　アマイカナ。

Uey　ニーチェもドストエスキーもそういうている。

Ima　僕はやはりアマイと思う。そういう風に充ちたりて朽ちるチューこともある。

Ume　いまはとにかく、充ちたりる方向へいく。

Ima　まだ、もーちょっと充ちたらん。

Ume, Uey　キボーや。

Kaw　いまの話は終末観があるかどうかでかわってくるだろう。

Ume, Uey　僕等はやはり終末観がない。

Ima　仏教では永久輪廻だ

Uey　そういうところでは　assertion　がない。yes　とか　no　とかがはっきりしない。終末観があると　safe　か　out　か　かけをせんならん。

Ume　しかし、僕らの子供の時分はエンマの裁きがあると教えられた、これは終末観とは違うのか

Ima　裁かれてもまた生まれかわるネン。もういっぺんやり直すネン。（大笑）最后の審判とは違う。ソャさかい、充ちたりて朽ちてもやな　またエエ社会に生まれかわってくるかもわからへん。

Tan　終末観があるとかえって具合が悪いという面もあるのでないか。

Ima　終末観と現在意識と関係があるといいつめていくと昔が一番良かった　—　チュウことになる。マルキシズムもそうやし、この間の　white　もそうや。

Ume　だから　いまの幸福なる豚が堕落であるという感じが僕等にはない。これを否定したらやはり元へ戻るのや。僕等はその先に希望を持とうというのだ。

Kaw　ケシカラン、堕落だというのは前の時代の批評にはあった。今西さんやらはもっと欲張ってるよって、そんなものではまだ喰い足らんというのだ。

Ima　喰いたらんのや。しかし　いまは戦後のこの幸福を享楽して　それでよろしいという川喜田の方がヒドイのや。

Ume　戦後のマルキシズムは充ちたりた豚ではいかんので　もういっぺん寒いところへ出ようという、エヤコンディショニングのあるこの快適な豚舎を捨てよという呼びかけや。それが基本的に方向が違うのでないか。確かにエヤコンディショニングのコントロールは誰かが握っているのやが　だからそのコントロールを握って方向をかえるということはあるにしても　もう一度外へ出よというのは無茶や。

Ima　戦争直后の赤の議論で　工場をみなつぶして了わんと日本はよくなりすぎているという議論があった　ソレヤ。

Uey　いまも合理化反対や。ソ連人がこの前来て、総評の連中が会うて合理化反対やというた。

Ume　今の左派の動き方は逆方向ばかりだ。

Uey　そのことで赤はキャピタリズムはアカンという訳だが　実際何処が悪いかをはっきりしてほしい。キャピタリズムだから　この悪があって　ソーシャリズムでなおせるということがあればよいが。

Ume　むしろ僕なら　ソシャリズムでも組織化され完成していったら同じ現象が起こるということを立証したい。むしろ社会の成熟の度合の問題だ。ある程度成熟していたときに、過渡期の現象として見られるものだと考える。

Ima　社会にも年令があって、どこかで　ハシカにかかりヨル。

Uey　しかし、こういうこともある。資本主義では儲からんことはやらんから、学校の先生なんか貧弱になる。アメリカみたいな大きな社会でもそうだ。また広告なんかにものすごくお金を使う。こういう　weak point　があるが　これはどうして解決するか。

Ume　それは キャピタリズムの成長の問題かもしれん、

Kaw　僕はそのまま ほっといたら自然良能で、まずいとなったら なおってくるのやと思う。自然良能に信頼する上山説 なら強制　制の論理になる。 ソ連の centralization なんかでも沿海州 のはしまで モスクワの centralization で動かそうというので ソ連の東のはしなんか大分 僕は ヤと してきていると思う。 だから反対の効果もあるのだ。

Iiz　しかし川喜田のようなリベラリズムは フロンティヤ がないと アカン のでないか。

Uey　僕は こういう オプリミスト が革命の検討をすることを望む、革命 を望んでいる人が 資本主義の検討しても アカンのや。 イイナ と思っている人がやるのが意味がある。

Tan　恐慌のことも あわせて 研究してほしい。

Kaw　もとへ戻るが フロンティヤ が 日本にもない訳ではない。日本の商社が東南アジア で 人が落ちつかないばかりに、西洋人に してやられるのだ

Ume　何か ブレーキが かかっているらしい。 それに日本が快適でアエテ フロンティア を必要としないという面もあろう。

Uey　明治時代は そんなことなかった。

Ima　白瀬 なんかは その意味で 大バカモン やった。

Ume　郡司大尉 なんか もひとつ ひどかった。 フロンティヤ が やさしいのが 手近かにあったとはいえる。 いまは東南アジア に いく と いうても なかなか イエン。

Ima　梅棹は前に 西洋人はキリスト教があるから イキヨンネヤ ということを 云っていたが、それ どういうことになるか。

Iiz　使命感 の問題か。

Ume　一種の バテドコロ の問題 がある。 一人一人が神サンと契約してて、ここで おれは バテル、や というもの。

Ima　大学の先生からでも 今は使命感のない人が居ハル。

Ume　使命感 というか、つまり神と個人とが契約している といったこと。

Ima　国では アカン のか。

Ume　明治のエネルギー チユウモン は そんなもの やった かもしれん。

Ima　満洲開拓当時の あそこに居た日本人はすごかった。

Iiz　その点ですこし質的に違いも感じたのは ポコラ なんですが あそこの英国の ミッション なんかで 20代の ナース が 働いているが 全然悲壮感が ない 連中なんかは使命感を もってると思うのだが、 日本人だと国家のため社会のためとかがくっつく。 彼等は平気でルージュつける、日曜には犬をつれて礼拝にいく。 日本人には それがない。

Kaw　ありますよ、僕なんかは Holy の 分量が多いから。

Ima　マ、この人は教祖 やさかい。

Ume　しかし日本にはやはり欠けているものがあるようだ。 あの すごい 満洲開拓も 敗戦の時、皆シューと帰ってきた、あそこで バテナンダ 神と直結してなかったようだ。

Tan　ヨーロッパ人なら未開をひらくという使命感があったろうが、吾々には アジア人が アジアを開くという点で使命感がなかったということも

Ume　イヤ、使命感はあった、Holy というか 満洲開拓にもそれはあった。 それだけが支えていたみたいなもンや。

おわり